

2025年度 研究、教育、社会貢献活動報告書

1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	たかはし かずし				
教員氏名	高橋 和志	職 位	准教授	学 位	博士
アルファベット表記	Takahashi Kazushi				
専門分野		経営組織論			
研究課題	テーマ	セルフヘルプ・グループのマネジメント			
	概要	公助の限界が近づいている現在、地域社会におけるセルフヘルプ・グループ（当事者集団、自助・互助集団）が果たす役割は、ますます大きなものとなっている。セルフヘルプ・グループの社会的効用が大きくなるほど、グループの大規模化、組織化、官僚化が進行していく。しかしながら本来、水平的でボランティアであるべきセルフヘルプ・グループは組織化（明確な規則、階層、分業など）とは馴染まない。このジレンマをどのようにマネジメントしていくのか。			
本年度 研究業績	研究テーマ	セルフヘルプ・グループの組織論的考察（学内学会）			
	経過と到達点	セルフヘルプ・グループを組織の分類方法の一つである合理的モデル（≡機械的組織）と自然体系モデル（≡有機的組織）とに分類して考察。セルフヘルプ・グループは自発的・自生的な側面をもつため、社会的な相互作用による適切な秩序形成を基盤とする自然体系モデルに基づいた組織デザインが好ましい。但し、セルフヘルプ・グループの置かれた状況は、多くのあいまい性（一貫性を欠く目標、不明確な手段、参加の流動性）を含んでいる。問題解決に至るプロセスは、一様ではなく、不明確である。偶発性をマネジメントできるのかという課題が残る。			

（1）学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①日本の学 会誌(査読付 き)					
②海外ジャ ーナル(査読 付き・IF な し)					

③海外ジャーナル(査読付き・IFあり)					
④国際共著論文					
⑤招待論文					
⑥その他論文					
⑦ディスカッションペーパー・書評					
⑧紀要論文					
⑨紀要研究ノート・専門誌記事					

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
①単著				
②共著				
③分担執筆				

(3) 学会発表

	学会・研修名	発表年月	発表タイトル	概要
①発表者	経営・情報学会 研究報告会	25年 9月3日	セルフヘルプ・グループの組織論的考察	セルフヘルプ・グループの組織デザインはどのようにして行われるべきかを考察した(上記の本年度研究業績に詳述)。
②共著者				

(4) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
①獲得共同研究(研究代表)				
②獲得共同研究(分担研究)				

③申請共同研究(研究代表)				
④申請共同研究(分担研究)				
⑤委託研究(企業等)				

(5) 受賞関係

	研究テーマ	受賞日	表彰名	表彰団体名

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
	講義	経営組織論 経営学総論	地域産業論 経営購読Ⅰ 編入対策特講
	演習	基礎ゼミナール ゼミナールⅡ	ゼミナールⅠ ゼミナールⅢ
	演習		
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義：基礎的な理論の見直しと現代的な事例を用いた説明を心掛けた。		
	◆ 演習：ビジネスマン向けの新書を講読。ハラスメントやマウント、謝らない人など、現代的な人間関係に関する問題を取り上げた。		

(1) ピアレビュー・FD 発表数

	回数
①受け入れ数	回
②参加数	回
③FD 発表数	回

(2) 課外活動

	概要
①ゼミ特別活動	
②その他活動	

(3) 学内管理業務

	委員会名等概要
①学内委員会	

②学園委員会	
③ワーキンググループ	
④その他	

3. 社会貢献活動（本年度のみ）

（1）公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①教育関係	
②学会関係	
③国	
④自治体	
⑤第三者委員会	
⑥産学・地域貢献	
⑦その他	株式会社 ZTV 放送番組審議会 議長 番組についての各委員の意見を集約、今後の番組作りに活用

（2）学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
①理事長・会長	
②理事	

（3）講演会関係

分 類	活動・講演の概要
①講演者・登壇者・学会座長	
②その他	

4. 特記事項（本年度のみ）

--